

神戸高専逍遥歌

むらさきにおう むこのやま にいしおよする あわじしま

1. 紫匂う六甲の山 新潮寄する淡路島

ひかりをあびて おかにたつ ゆかしくもゆる わかみどり

光を浴びて丘に立つ ゆかしくもゆる若緑

まつはみどりに すなしろき まいこのはまの ゆうまぐれ

2. 松は緑に砂白き 舞子の浜の夕まぐれ

しおのかたかく ただよいて せいしんのきは とみにわく

潮の香高く漂いて 清新の気はとみにわく

なべてにごれる ひとのよに けがれをしらぬ わこうどの

3. なべて濁れる人の世に 汚れを知らぬ若人の

ふかきうれいを わかちつつ ともよてをとれ かたらわん

深き憂いを分かちつつ 友よ手をとれ語らわん

ごとせのちぎり はるあきを ともとえらびし このおかに

4. 五年の契り春秋を 友と選びしこの丘に

あえかにわかき たましいは まことをもとめ すえかたる

あえかに若き魂は 真を求め未来語る

しゅうれいここに ちをしめて りそうにいきる わこうどや

5. 秀麗ここに地を占めて 理想に生きる若人や

われもくがねの かぎもちて しんりのとびら ひらかなん

われも黄金の鍵持ちて 真理の扉開かなん